令和５年１１月吉日

川崎市立小学校体育研究会　幸支部研究会だより

Saiwai. com

幸支部授業研究会（南加瀬小学校）

≪ 3年生 保健「健康な生活」 ≫ 井上広宣先生

≪5年生 器械運動「マット運動」≫ 髙田沙紀先生

１１月１日（水）に南加瀬小学校にて第１回幸支部授業研究会が行われました。授業では、子ども達が夢中になって運動に取り組んだり、生き生きと考えを伝え合ったりする姿が見られました。授業や会場の準備をしてくださった南加瀬小学校の職員の皆さん、ご多用の中参観された皆さん、ありがとうございました。

研究協議では、活発な意見交換がなされ、研究を深めることができました。また、講師の滝澤慎一郎先生、新山君代美先生からは、体育の学習を考えていくうえで参考になる貴重なご助言をいただくことができました。

以下、多くのご意見、ご感想をいただいた中で、主だったものをいくつかお知らせさせていただきます。

3年生 研究協議 〇感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答・授業者より

【“健康”への捉えについて】

〇前時（１時間目）に考えた「健康とはどんな状態か」ということを導入で取り上げることで、健康には体の健康と心の健康があることを捉えながら本時の課題について考えることができていた。前時とのつながりを大切にし、学習の積み重ねを意識していたのがよかった。

【食事・運動・睡眠の３つの関わりを理解するための手立てについて】

〇保健室来室人数を養護教諭が伝えたことをきっかけにして、食事・運動・睡眠の３つがどのように関わっているのか子ども自らが考えようとする姿につながっていた。

〇保健室に来室した子を具体例として取り上げたり、子どもの一つ一つの気付きに対して教師が丁寧に問い返していったりしたことで、３つが関わりをより深く理解することができた。

◎「３つの関わり」をなんとなくの理解で終わらせずにより確かなものにしたいという思いで授業を行った。子ども達がより具体的に考えられるように意識した。

5年生 研究協議 〇感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答・授業者より

【子ども同士の関わりについて】

〇子ども同士が互いの技を見合い、アドバイスをし合いながら関わる姿がたくさん見られた。「今の技どうだった？」と自らアドバイスを求める姿もあった。

◎マット運動は嫌いでも、友達との活動には意欲的に取り組める子が多いことが事前アンケートの結果から分かった。子ども同士の関わりを大切にすることで、マット運動が好きな子が少しでも増えればいいと思った。

【めあてのもたせ方について】

☆子どもがめあてをたてる際、どんなことを大切に指導したか。

◎１・２時間目「やってみる」では、技を知ることに重点を置いた。技のできばえやポイントを正しく理解することで、３時間目「広げる」からのめあて学習につながるよう意識した。

指導講評 川崎市立小学校体育研究会 助言者 川崎市立古川小学校 総括教諭 新山君代美 先生

〇３学年「健康な生活」は、食べること・運動すること・寝ることがしっかりできる年齢だからこそ３年生で扱うのだと思う。しっかりできているからこそ学習する必然性が生まれ、主体的に取り組める。

〇友達の考えを受け入れ、分かろうとするクラスの雰囲気がよかった。マイナスな発言が一切なく、「こうしたらいいんじゃないかな？」と前向きに考えようとする関わりがよかった。

〇養護教諭がＴ２となり、保健室の来室状況をクイズ形式で伝えることで子ども達の興味が高まった。担任とともに養護教諭も机間指導を行っていたのもよかった。

〇保健室に来室した子を具体例として取り上げたのがよかった。自分ではない人物のことだからこそ考えやすく、話し合いが活発に行われていたのだと思う。

〇健康な生活について考える学習は、家庭との連携も重要になってくる。子どもが立てた生活の目標を家庭に発信し、学校と家庭で子どもの成長を共に見守っていく体制を整えることも必要だろう。

〇ワークシートの内容については検討の余地がある。食事・運動・睡眠の３つのつながりについて考える活動にいく前に初めから穴埋めの図が書いてあると、子どもの思考の流れには合っていない。

指導講評 川崎市立小学校体育研究会 助言者 川崎市立小倉小学校 教頭 滝澤慎一郎 先生

〇子供の思いに寄り添って多くの場を用意し、すべての場の児童に声掛けをしていた。

〇全員が友達との関わりの大切さを実感し、最後まで主体的に活動していた。

〇技につながる易しい運動は何のために行うのか考えるべきである。
例えば、「かえるの足打ち」は着手と腕支持の感覚を身に付けることが目的であり、足を打つことや足を伸ばすことは一番の目的ではない。何を目的にその運動を行うのか教師が理解しておくことが重要である。

〇安定した動きを身に付けることが大切である。発展技に取り組もうとする姿勢はよいが、たまたまできた動き、つまり再現性のない動きはできたとは言わない。技の出来栄えやポイントを頭の中で理解し、もう一度その動きができるようになることが技の習得につなっていく。

〇手本となる動きをいつでも見られる環境をつくることが大切である。それに有効な手立てがGIGA 端末の活用である。撮影した自分の動きを見ることに加え、すぐに手本動画と見比べることが大切である。手本の動きをリアルタイムで見ることで具体的な操作の仕方を知ることにつながっていく。

〇子ども自身が学習の見通しをしっかりともっていることが重要である。その手立ての一つが技の系統表を提示することである。見通しをもつことが、自分の力に合った技に挑戦したり出来栄えを高めたりするように自らの意思でめあてを設定する姿につながっていく。

担当：古川小学校　佐久間　貴佳
文責：幸町小学校　　木戸　祐輔